



事前のお知らせ

『原色日本菌類図鑑』のきのこの原図を初公開！ 企画展「シダときのこ 牧野富太郎と川村清一」を開催

と き	9月13日(土)～11月3日(月・祝) 午前9時30分～午後4時30分 火曜休館
と ころ	牧野記念庭園記念館 (東大泉6-34-4庭園内) 入場無料

世界的な植物学者で、練馬区に居を構え「日本の植物学の父」と呼ばれた牧野富太郎博士(1862-1957)の住居跡を整備した牧野記念庭園で、「シダときのこ 牧野富太郎と川村清一」と題された企画展が9月13日(土)から開催される。

牧野富太郎博士は1940年、78歳の時に、研究の集大成となる『牧野日本植物図鑑』を出版。図鑑は、種子植物とシダ植物は牧野博士が、その他は牧野博士以外の各専門家が執筆を担当した。本展では、牧野博士が描いたシダの図と、菌類各種を担当した菌類分類学者・川村清一が描いたきのこの図を展示する。

川村は、約40年にわたり写生し研究してきた成果をまとめ、図鑑として出版する予定だったが、印刷中の図鑑は戦災で焼失し、自身も出版を見ることなく1946年に亡くなった。企画展で展示されるのは、川村が残した原図と校正刷りをもとに出版された『原色日本菌類図鑑』(1954-55年)の原図で、今回が初公開となる。



川村清一筆 クロカワ
(国立科学博物館蔵)

【牧野記念庭園の紹介】

世界的に著名な植物学者である牧野富太郎博士(1862年～1957年)が、大正15年(1926年)から昭和32年(1957年)に死去するまでの約30年間住んだ居宅と庭の跡地。昭和33年(1958年)に区立庭園として一般公開した。

園内には牧野博士が発見し、妻の名をとって命名したスエコザサをはじめ、日本で最大級のセンダイヤ(サクラ)をはじめ、ヘラノキ、チチブフジなど300種類以上の植物が成育している。記念館では博士が採集した植物標本や、著書、顕微鏡などを展示している。また博士の書斎が保存、公開されている。

牧野博士は、土佐国(現高知県)生まれ。19歳で上京し、東京帝国大学の助手・講師を勤め、明治22年(1889年)日本人として初めてヤマトグサに学名を与え、1,000種の新種、1,500種の新変種を命名し、40万点の標本を採集した。著書に「牧野日本植物図鑑」など多数。文化勲章受章、名誉都民・名誉区民などに顕彰されている。

チラシに掲載されている講演会「川村清一と菌類の世界」については、申込受付が終了しました。

交通案内：西武池袋線「大泉学園駅」南口下車 徒歩5分

開園時間：午前9時～午後5時 / 入場無料

休園日：火曜日(火曜日が祝休日にあたる場合は開園、その直後の祝休日でない日を休園)および年末年始

【問い合わせ】 花とみどりの相談所 電話03-3976-9402